白神トピックス

◀無料で振る舞われた「白神ねぎ千本焼き」

全国22産地から自慢のねぎが大集結　ＪＡあきた白神

全国の主要ねぎ産地が一堂に集まる「全国ねぎサミット2017 in のしろ」が10月７日、８日の２日間、能代市役所駐車場・さくら庭で開かれました。能代市で開催されるのは初めてで、14府県・22産地が参加し、ねぎの試食や販売を通して、その魅力をアピールしました。

ステージイベントの各産地のＰＲ合戦では、ねぎ部会の大塚和浩部会長が「白神ねぎは白神山地からのミネラルたっぷりの水で栽培され、太くて軟らかく、とろけるような味わいながらも、しゃきしゃきとした食感が特徴。これからの時期、鍋物にもぴったり」とアピールしました。また、各産地のブースでは、ねぎの販売や試食が行われ、当ＪＡは「白神ねぎ千本焼き」を無料で提供しました。炭火で焼いたねぎを試食した来場者からは「こんな食べ方は初めて」、「甘くておいしい」といった感想が聞かれました。２日間での来場者は約３万人（主催者発表）となり、大盛況のねぎサミットとなりました。

▲ＰＲ合戦の様子

収穫・出荷の最盛期を前にねぎ目揃会を開催　ねぎ部会

ねぎ部会（大塚和浩部会長）は10月６日、秋冬ねぎの収穫と出荷を目前に控え、出荷規格等を確認する目揃会を開きました。

生産者やＪＡ、市場関係者など約30人が参加し、はじめに大塚部会長が「これから秋冬ねぎの収穫のピークを迎える。この目揃会で規格等を学び、一致団結して目標の販売額13億円達成に向けて頑張っていこう」とあいさつ。また、山本地域振興局職員は「葉枯病は気温が下がってくると黄色斑紋病斑となる。発生時期が近づいてからの防除ではほとんど効果がないので、早めの防除をお願いしたい」と注意を呼び掛けました。

▲出荷規格の確認を行う生産者

▲新米を買い求める人で賑わった直売会

新米の特価販売に長蛇の列　生活課

安全・安心なＪＡの新米を、いち早く消費者へ提供しようと、10月15日にみょうが館特設会場で新米直売会を開催しました。

今年は、収穫期の長雨の影響で昨年より約２週間遅れての開催となりましたが、開催時間になると、購入を待ちわびていた消費者が列を作り、自宅用や知人、親類に送る購入客で賑わいました。販売は購入者の車に職員が米袋を運ぶ、ドライブスルー方式で対応し、次から次へと職員が車に積んでいきました。この日は、あきたこまちの玄米１袋（30kg）を8,300円で販売し、新米約450袋が購入され大盛況の直売会となりました。